



希望！共生！個性！

佐渡総合教育センター
所長 山川 辰也

明けましておめでとうございます。本年も当総合教育センターの利活用をお願いいたします。また御要望などどしどしお寄せいただければ幸いです。

さて、「今年の漢字」は「金」でした。今年の漢字は何になるのでしょうか。そして今年の学校教育はどうあればよいのでしょうか。時代は…激変しております。「**どんな時代になろうとも、大切にしなければならないものは何か。三つあげよ。**」と問われたら、私は次のように答えます。

1「希望！」

人間(子ども)は、夢・希望・目標がなければ意欲的には生きていけません。ですから、どんなに困難な状況下にあっても「希望」を大切にすることを体験的に学ばせていきます。



2「共生！」

人間(子ども)は、一人では生きていけません。どんなに力のある人でも、人のお世話になって生きています。どんなに弱者の立場にある人でも、人に喜びを提供できます。ですから、共に学び合い・共に助け合う大切さを体験的に学ばせていきます。

3「個性！」

人間(子ども)は、自分を押し潰して生き続けることはできませんし、健全ではありません。ですから自分の良さ…アイデンティティを再発見し伸ばしていく大切さを体験的に学ばせていきます。

これは金泉小学校の教育目標でもありますが、大切にしたいキーワードです。「今年の漢字」が「希」か「共」か「個」だといいなあとと思います。

自立、協働、創造に向けた主体的な学び

下越教育事務所
指導主事 上野 昌弘

現在、審議が進んでいる第2期教育振興計画では、2060年には、我が国の人口は約9千万人まで激減し、そのうちの4割が65歳以上の高齢者となる超少子高齢化社会になると予想しています。生産年齢人口の減少、経済規模の縮小、税収の減少、社会保障の増大の進行という危機的な状況の中で、今、まさに我が国に求められているのは、「自立、協働、創造に向けた一人一人の主体的な学び」であるとしています。正解のない、しかし、立ち止まることの許されない時代、最適解、納得解を創造し、協働して社会を生き抜く力が、未来を担う子どもたちには求められているのです。

佐渡は、日本の10年後、20年後の姿を先取りしているとも言われています。だからこそ、こうした危機感をより強く感じ、佐渡の教育は一步先を行くのだという自負と気概をもち、日々、目の前の子どもたちと接していきたいものです。

交通や学校規模等、離島としてのハンデは、新しい発想の必要でもあります。「学び合いは複式でこそ効果的」という佐藤学氏の言葉もしかり、ICT等を活用した学校間交流学习やクロスメディアによる表現学習等、お金をかけずともできることが山ほどあります。同僚が少ない、同じ教科の教員がいない、だから、互いの授業実践を交流するシステムやネットワークを作ろう。大切なのは、必要感を実現する意欲とヴィジョン、そして、一步踏み出すことです。

私たちは、教育のプロとして、自ら主体的に学び続ける姿を、まず、子どもたちに示したい。新年にあたり、こんな決意を皆様と共有したいと思いました。

心のケアを

管理主事 新発田 靖

新年を迎え、新たな気持ちで3学期をスタートされたと思いますが、子どもたちはもちろん先生方も元気にやる気に満ちておられるのでしょうか？子ども一人ひとりの見取りはもちろん大切ですが、先生方ご自身はいかがでしょう。書き初め、餅つき、NRT、進路指導等、新年早々忙しく過ごされ、心が疲れていないでしょうか？

ある方から次のようなお手紙をいただきました。

…講演会で、心をリラックスさせることが大事で、香りがすぐに効くという話を聞きました。講師の先生はローズの香りのリップクリームを大人買いしたそうです。先生も是非使って「にこにこ元気」でいてください。…

このお手紙を読むだけでリラックスし、心がケアされましたが、手紙に添えられていたリップクリームを早速塗りました。

3学期も忙しい毎日となると思います。子どもの心はもちろんですが、ご自身の心のケアも大切にされ、交通事故等にも十分注意して子どもたちの前で「にこにこ元気」な先生でいてください。



なお、昨年10月1日付けで「佐渡市教職員の試し出勤実施及び職場復帰支援プラン」を施行しました。心の健康問題による長期療養者の円滑な職場復帰を図ることを目的としています。詳しい内容については、各学校に配布してありますのでご覧ください。

いじめ・不登校調査結果より

教育指導主事 吉田 久人

今朝も吹雪の中、黙々と登校する児童の姿が見られました。また、学校の正門前では児童を迎える先生方の姿があり、慈しむ姿に心が温かくなりました。

冬季休業中に報告された生徒指導上の事件・事故はありませんでした。先生方のご指導のたまものと感謝申し上げます。

さて、いじめ・不登校状況調査の結果について報告させていただきます。2学期末の不登校児童生徒数は49名でした。小学校は6名、中学校43名です。この中で、中学2年生が19名、3年生が17名と突出しています。また、新たな不登校は小中合わせて23名でした。

全体としてみると、この3年間では僅かではありますが減少はしています。しかし、依然として大きな数であり、深刻な状況は続いています。

次に、いじめについてですが、報告件数は小学校10件、中学校7件でした。小学校の報告件数は昨年1年間の3倍に達していますが、児童の小さな変化を確実に見取り毅然と対応された結果と捉えています。いじめ事故の数件については、継続的な観察が必要と把握しています。

頂いた賀状の中に「私は、いじめ・不登校は嫌いなのです」との文言があり、心強く読ませていただきました。

生徒指導上の問題行動には、その都度、的確な対応が不可欠です。教師一人一人の自覚と全校体制での取組が状況を動かします。

まとめの学期、よろしくお願ひします。



次年度の学校評価に向けて

平成23年度の文部科学省「学校評価等実施状況調査」の結果が文科省ホームページに公表されています。ご覧ください。

佐渡市では5つの分野で学校評価に取り組んでいただいておりますが、次年度は佐渡市の課題である次の3つを重点分野とします。

- ①全校体制で取り組む学力向上
- ②佐渡を愛し、夢と誇りをもつ教育の充実
- ③不登校に対応する生徒指導の充実

次年度に向け、評価と改善をお願いします。不登校については「新たな不登校を生まない」という視点からの検討も重視してください。